

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471500304
法人名	社会福祉法人 誠幸会
事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原
訪問調査日	2015年12月9日
評価確定日	2016年1月8日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471500304	事業の開始年月日	平成15年11月1日	
		指定年月日	平成27年11月1日	
法人名	社会福祉法人 誠幸会			
事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原			
所在地	( 250-0631 ) 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1285-368			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成27年11月16日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月11日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かゆい所に手がとどくお手伝いを基本に、原点を見直す点からも基本であるコミュニケーションの重要性を多く自事業所研修に盛り込み、長年泉の郷仙石原で生活して頂き重度化された入居者様とも言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションを使い積極的にコミュニケーションを取っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Y ビル2F		
訪問調査日	平成27年12月9日	評価機関 評価決定日	平成28年1月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●このホームの経営母体は、社会福祉法人誠幸会です。本法人は、横浜北部を中心に、特別養護老人ホームを含む多方面にわたる高齢者介護事業・横浜市地域ケアプラザ指定管理業務・障がい者福祉事業・保育園の運営等 総合的な福祉事業を展開しています。グループホームは、このホームを含めて5事業所あります。このホームはJR「小田原駅」から箱根登山バスに乗り「小塚入口」で下車した徒歩5分程の場所に位置しています。周辺は箱根の山々に囲まれ、四季折々の自然を望むことができ、温泉の湯を引いている為、いつでも温泉に浸かることも出来る土地柄を最大限に活かされたホームです。

●法人理念「質の高いサービスと満足の提供、感謝の返礼」を根幹として、毎年、法人の理事長が社訓を発表し、今年度は新たに「利他の心で共創の場づくり」が追加されました。管理者は「かゆいところに手が届く」をモットーとしたうえで原点を見直すとし、介護技術は勿論、コミュニケーションや声掛けを重視したケアの強化を図っています。一人ひとりの利用者の様子を注意深く観察し、何がやりたいのか？何をやろうとしているのかを察して、行き過ぎないケアに努めています。また、開設から13年が経ち、新たな取り組みとして8月からショートステイの受け入れも開始しました。

●職員の教育については、年間で10回の研修を実施しています。うち1回は本部で開催されるものになっており、日程を調整しながら必ず1回参加する仕組みになっています。ホーム内での研修については、管理者が講師担当者を毎回選任して全職員に回るようにすることで、職員の意識を高めています。研修のテーマはホームで話し合い項目を決め、本部に提出した後に実施する体制をとっており、研修に使った資料は冊子にして閲覧できるようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原
ユニット名	グループホーム泉の郷 仙石原

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝法人理念を読み上げることにより、理念を浸透させ、職員一人ひとりが意識を持って実践できる環境作りを心がけています。	法人の理念「質の高いサービスと満足の提供、感謝の返礼」を根幹として、毎年法人の理事長が社訓を発表しています。今年度は新たに「利他の心で共創の場づくり」が追加されました。ホームの理念は「かゆいところに手が届く」をモットーとし、毎朝の朝礼で理念を読み上げることで職員に浸透させ、全職員が実践できるように努めています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小塚地区の常会、総会行事には積極的に参加させて頂き、今年度は小塚水道組合の会計に任命されています。	小塚地区の常会に参加し、総会行事（下町地区・連合長内会）の運動会には利用者と共に参加しています。周辺の道路清掃活動や散歩時には地域の方と挨拶を交わしています。また、中学校の体験学習の受け入れ、年1回ボランティアによるフルーツやバイオリンの演奏に来てくれています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小塚地区の常会・総会、枝打ち・道路清掃等行事にも参加している。また入居者様の散歩コースにはベンチを置かせて頂き、地域の方々との挨拶を大事にしています。	/	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域住民の方、町役場の福祉担当者との運営の報告、今後の運営等についての意見をいただき向上に努めていましたが、町役場の指導もあり今後は年6回の運営推進会議を開かせていただき、なおいっそうの向上に努めてまいります。	運営推進会議は地域の組合長を含め、家族代表、利用者、箱根町役場の福祉の担当者、地域包括支援センター、ホーム関係者の構成で行っています。民生委員の方が飲食店を経営している関係で出席が難しい状態ではありますが、今後は代理の方の参加を検討し毎回参加頂けるようにしたいと考えています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は箱根山火山活動が活発になり、皮肉にも町役場との意見交換等多く行う機会がありました。今後についても協力関係を保てるよう密な意見交換を行います。	今年は箱根山の火山活動が活発に起こり、町役場や他施設とも情報交換や連絡を密に行うようになりました。社協や包括センターとも、入居者の紹介等の連絡を含め協力関係を築けています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当然ながら、地域の皆様のご理解やご協力により、玄関の施錠もなく、全面的に身体拘束のないケアに取り組んでおります。	ホームの運営方針にも身体的・精神的拘束は行わないと掲げており、身体拘束については、研修や会議でも取り上げ、図解入りのテキストを用いて該当事例等を話し職員に周知徹底しています。地域の方々の理解・協力を得て玄関の施錠は行わず全面的に拘束のないケアに取り組んでいます。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一言に虐待防止とは話さず、認知症の理解及び付き合い方や楽しみ方を研修等で学び虐待防止に繋げています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、介護者が行える範囲や後見人が行える範囲など実践を交え研修等に取り上げています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み上げ、質問等には、確実なご返事が出来るよう、自身も把握に努めています。また変更時は口頭及び文書にて説明、同意を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、第三者委員会も設置し随時受け付けている。又利用者から意見要望なども、アンケートを基に対応しています。	ご家族からの意見・要望については来訪時や運営推進会議、お便りにアンケートを同封して聞くようにしています。また、第三者委員会を設置し、苦情相談窓口をホームの目立つところに掲示することで、随時連絡出来るようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営等に関しては、事前にテーマを決め職員会議等での意見交換を行っています。また新人職員の新しい目線も大事に話し合いを持っています。	運営に関しては、事前にテーマを募りミーティングや定期的な職員会議等で職員間で意見交換を行っています。年度末には、職員が記入した自己申告書を基に、管理者と面談を実施し、振り返りをしたうえで個別に意見等を聞いています。管理者は職員の様子をみて声かけし、必要に応じて面談の機会を設けています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年の退職金制度と今年度は介護福祉士の手当てを増額するなど、職員が資格取得に目標を持ち給料に繁栄する幅が変わりました。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対し、法人も積極的に研修や資格取得を進めています。また今年度法人より介護福祉士取得に最高50,000円の補助が出るようになり、法人内での初任者研修も含め若い職員を育てるを進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	箱根町福祉ネットワーク等で定期的に他事業者との情報交換や勉強会に出席させて頂き、共に向上を目指しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	穏やかで温もりのある話しかけで、関わる時間を多く取ったり、利用者のお話を真剣に聴くことで利用者一人ひとりの状況や困りごとを把握して、寄り添い、不安のない生活づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等でのお話やご要望等もお伺いしながら、家族が抱えている困りごとや不安を解消して頂き、信頼関係づくりに努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴を伺いながら新たな環境に戸惑いなく、安心して生活が出来る様に見守る姿勢や本来のその人らしさが発揮できるように個人が持っている生活技術を引き出す事が出来るような生活づくりの支援に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「いま、ここで」共に過し、普通の生活を目指す道りに少しだけサポートをして、本人の持っているあらゆる可能性を引き出し活用することで、日々の生活が安心して過ごせるように努めております。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の生活記録を送付して随時生活の様子がわかるようにしている。また電話や面会時にもきめ細やかに日常のお話を伝えたり、相談事にも耳を傾けております。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントのご案内をさせて頂いたり、遠方ではなかなか来ていただけない方には、あらためて連絡したり、お話をさせて頂いております。	イベントのご案内をご家族に送付しています。遠方で面会が困難な場合は、改めて連絡して出来るだけ参加して頂けるように声をかけています。今年は箱根山の火山活動が活発に起こった関係で、近くのリハビリ病院と連絡を取り合い、中庭で健康診断を受診できるようになったりとホームとしても新たな関係づくりが出来るようになりました。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにも定席を設け、利用者間で自発的に交流を持ち、時には職員が橋渡しをしながら支え合えるように支援をしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動されても、定期的に様子を伺ったり、時には電話で連絡をさせて頂きお話をさせて頂きながら、これまでの関係を続けさせて頂いております。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ一人ひとりの生活歴を家族よりお伺いして、その人に合った関わりと居心地のいい居室やリビングの環境を整えることで、本人の不安を払拭している。	一人ひとりの思いや意向を把握する為、本人の過去の生活歴や習慣をできるだけ細かくご家族から聞くことで、その方に合った関わり合いが出来るように努めています。また、ホームの理念に掲げている「かゆいところに手が届く」ケアを実践するべく、職員は言葉によるコミュニケーションだけでなく非言語コミュニケーションからも想いを察するように努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から今までの暮らし方（趣味や得意とする事等）をお伺いしたり、時には会議等で課題分析しながら、把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事ややりたい事を取り入れながら、出来ることへの拡大を図り、関わりの中の生活づくりに努め、ケアプランにも繁栄しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランのチェック表やケアカンファレンス記録表等で状況変化に応じた個別性に配慮した目標提示がされているかを話し合い、プランの実施状況の再確認をしています。	ケアカンファレンスで、全職員に配布している日常生活動作チェック表を用いて、現状のケアプランの見直し、今後の課題を話し合いながらケアプランを作成しています。理念に掲げている「かゆいところに手が届く」を実践すべく、個々の利用者の体調やADLに応じた個別ケアを心がけています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	再アセスメントやケアカンファレンスしながら状況変化に対応、見直しをしている。またケアプランのチェック表でも介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題や大きな状況変化が起きた時には、会議を開催して、家族の意向や状況等話し合い、個別性に配慮した、きめ細やかな対応が出来る様に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心、安全で不安なく豊かな暮らしができる事を基本に、個人の持つ生活技術や可能性を引き出す生活づくりを支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	28日1回の協力医療機関からの往診、週1回の訪問。希望者には歯科往診も受けて頂いています。	かかりつけ医は、近隣の内科医にお願いしています。医師には28日（薬処方期限）の間に9回（1日1人のみ診察）の往診があり、各入居者が受診しています。1日1人の診察なので月9日間は医師の訪問があり、利用者の安心につながっています。希望者には訪問歯科診療及び、口腔ケアの受けられる体制を整えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本部訪問看護ステーションより週に1回来所されています。その都度相談やアドバイス、処置等を行って頂き、24時間電話でも対応して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的に病院に行き医師や看護師と情報交換しております。個人情報保護の面では、開示を拒む病院もありますが、各病院の連携室との協働を心がけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想できた時点で、ご家族様や協力医などと十分に話し合いを持ち、施設で出来る事、また違う選択も含め、入居者様、ご家族様の希望がかなうよう支援しています。	現在は看取りについては行っていません。重度化や終末期を迎えるにあたり、ご家族、医師、職員の3者で話し合いの場を設けています。ご家族にはホームで出来る事を説明したうえで、特養や病院等への異動も視野に入れて対応しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の協力のもと心肺蘇生の研修や、看護師からは応急処置から嘔吐物の適切な処理方法を研修を通し学んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は火山警戒レベルもあり、備蓄の見直しや避難場所の検討等、災害対策に本気で挑んできました。また近隣の病院からの協働も対策に入れ、今後も協力体制を続けていく。	年2回の防災訓練を消防の立会いで実施しています。また、災害時には近隣の病院との協働も視野に入れながら協力体制継続出来るように話をしていきます。今年度は箱根山の火山活動が活発に起こった関係で改めて備蓄品の見直しや避難場所の検討を行いました。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの取りまく状況や行動をよく理解し、今その人に合った言葉かけをするように努めている。	法人の基本方針にも「利用者個人の尊厳の保持尊重、自立への支援」を掲げており、一人ひとりの取り巻く状況を理解し、その人に合った言葉かけをするように努めています。入浴介助やトイレ介助の場面においても、「羞恥心」に配慮してタオルをかけて対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりその人に合ったペースで生活してもらい、好きな事の情報を収集し、話題に活用している。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様最優先を掲げ、利用者様が何を求めているのか、無理にレクを強要していないかなど利用者の立場になり利用者様との信頼関係を築き支援をする。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて一人ひとりの希望に合った服装をして頂き、清潔保持の支援をさせて頂いています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備をする、食事を味わう、片づける、と五感を働かせるよう皆様には出来る限り楽しく参加できるよう導き努力をしています。	食事のメニューは利用者の要望を反映させ、栄養士にアドバイスをもらいながら職員が考え作っています。味はもちろんのこと視覚でも楽しめるように考慮しながら、旬の食材を取り入れています。季節に合わせた行事食や弁当屋さんを活用し、いつもと違う食事を提供することで、楽しめるように支援しています。また、参加出来る方には準備や片付けを職員と行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に朝、昼、夕と摂取量や水分量の記録をしている。偏食にも気をつけ、まんべんなく召上がって頂くように声かけをしながら、できるかぎり召上がって頂くように支援しております。又栄養士や看護師から意見も聞きメニューを作成している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医師や歯科衛生士のアドバイスを参考に一人ひとりに適した口腔ケアを行っています。歯ブラシ等に関する指導、提供を行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を記帳や常に職員同士で情報の共有を行ない、トイレでの排泄に向けた支援を行っています。	管理者は「座位」の姿勢がとれる間はトイレで座って排泄してもらいたいとの想いで、オムツ・リハビリパンツは極力使用しないことをモットーとし、一人ひとりの排泄パターンや習慣の把握に努め、トイレでの排泄に向けた支援を行っています。リハビリパンツを使用する際はご家族の承諾を得ています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけでは頼らず、飲食物や献立なども職員研修に取り入れ運動や青汁など、ご本人に合った便秘予防を工夫しておこなっています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望等があれば考慮致しますが、逆に利用者様に入浴の曜日等を事前に知らせることにより、入浴日を楽しみに過されている方もおられます。	このホームの特色の一つは「温泉」です。原則2日おきに入力していますが、本人の希望があれば、毎日の入浴にも応じています。時間については、希望に応じられない時もありますが、入浴を希望する利用者は曜日、時間に関係なく入浴してもらっています。重度化の人にも対応できるようリフトも設備しています。温泉の湯質が合わない人には通常の水を沸かして対応することもでき、柔軟な対応で支援しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムをつかみ、様子の観察もおこない、休息や安眠できるよう支援をしています。また場所的に夜間の冷え込みも注意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に誤薬に関しては法人全体でマニュアル化、予防策を話し合っています。職員一人ひとりに誤薬の恐ろしさを知って頂き、今年度は誤薬0を更新しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	まずは利用者様へのストレス軽減をすすめ、適量の晩酌や外気浴等で気分転換、利用者様の誕生日会などのイベント、また職員との協働を進めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の重度化もあり、以前より外出の機会が減少しています。ご家族様の面会では外出を促させて頂き、職員も重度化の理由に頼らず、短時間でも皆様を外出に導ける様努力しています。	入居者の重度化に伴い、以前より外出する機会が少なくなりましたが、天気の良い日には短時間でも散歩に行くことを心がけ、四季折々の自然を楽しんでもらうようにしています。また、ご家族が来訪した際には、家族の協力を得て外出を促しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて管理させて頂いています。買い物等を希望される入居者様には預り金より一部を手渡し、職員同行で買い物を楽しんで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、御家族様への電話をかけるせて頂いています。手紙は難しくなっており、短文な手紙などは領収書と共に送らせて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様の多くの時間を過ごされるリビングには天窓しかなく外の様子が伺えなくなっていますので、壁等には季節を意識した掲示物等工夫をしています。また歩行運動を兼ねながらテラス方面に行き外の様子を窺えるようにしています。	玄関ホールは広い造りになっており、入ってすぐ左側に暖炉とソファが置かれた応接スペース、2階には食堂があるので、ご家族の来訪時に談話スペースとしてやレクをやる際に活用しています。共用部分には、四季折々の花が飾られ、季節毎の作品や写真を掲示したり、利用者同士の相性にも考慮してテーブルの向きを変えるなど、利用者が落ち着いて過ごせるよう環境を整えています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、ソファを置きゆったりとした空間の中話しをしたりその方の気分に合わせて一人で自由に過ごせる場所を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員はいらないと思っても、ご本人にとっては大事な物等は出来る限り居室に置いてもらっています。昨日入居された方は、以前施設での生活になじめなく自宅に戻りましたが、今回はその原因等家族と相談し、今は当施設で落ち着いた生活を送って頂いています。	居室は余裕ある造りになっており、備え付けられているエアコン・クローゼット以外は、本人の使い慣れた家具や用品が持ち込んでもらっています。居室内に持ち込まれている物は利用者にとって大切なものであると認識し、自由に置いてもらい居心地よく過せるように配慮しています。ベッドは原則持ち込みですが、必要に応じて貸出対応も行っています。また、転倒など安全にも配慮しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を引き出せるよう、職員はヒントや、かゆい所に手がとどく支援を行っています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム  
泉の郷 仙石原

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。